

サイバー主権と プリンターネット

八田真行

駿河台大学経済経営学部

スプリンターネット

- **Splinternet**

- splint = 破片、分裂した
- 「インターネットのバルカン化」とも
- IGFでもほぼ毎年関連セッションあり

サイバー主権

- Cyber Sovereignty
 - Network Sovereigntyとも
- 主権
 - 「自分のことは自分で決める」
- インターネットに「国境」を設ける
- イラン、ロシア、中国、北朝鮮、韓国、サウジアラビア、ビルマ、シリア、チュニジア、インド、ベトナム、キューバ、トルコ、アラブ首長国連邦、ベラルーシ、パキスタン等
 - 中国等から技術輸出

スプリンターネット

- 動機

- 商業
- 政治、国家安全保障
- ナショナリズム
- 宗教
- 児童ポルノ、著作権侵害対策
 - SOPA-PIPA（米国）、漫画村ブロッキング騒動（日本）

- 手段

- 技術：グレート・ファイアウォール、金盾（中国）
- 立法：インターネット主権法（ロシア）
- スマホシフト、ある種のベンダーロックイン

インターネット

- 「インターネットは一つ」というイメージ
 - 「Open Internet」
 - 「Governments of the Industrial World, you weary giants of flesh and steel, I come from Cyberspace, the new home of Mind. On behalf of the future, I ask you of the past to leave us alone. You are not welcome among us. You have no **sovereignty** where we gather.」 (バーロウ「サイバースペース独立宣言」、1996年)
- インターネットは寛容や多様性を育む？

最近の動向

- イタリアがプロジェクト・グーテンベルクをブロック
 - 2020年5月～
 - Telegramでコンテンツの違法共有があったとFIEGが差止請求
 - コンテンツが置かれていたサイトをISPがブロック（DNSポイズニング）、そのリストにgutenberg.orgも
 - イタリアではまだ著作権が切れていない
 - ISPやプラットフォームに責任を負わせる
- Signalメッセージャーのブロッキング
 - イラン、中国、キューバ、ウズベキスタン
 - 技術的な回避は可能

最近の動向

- LGBTQ関連のサイトブロッキング
 - インドネシア、マレーシア、イラン、ロシア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦
 - DNSポイズニング、HTTP透過プロキシ、WireFilter（サウジアラビア製）
- 選挙時のSNSブラックアウト
 - ザンビア、タンザニア、ブルンジ等
- HTTPS+TLS1.3+ESNIのブロック
 - 中国、インド等

今後

- 「インターネットは1つ」はたまたまそうになっていただけ
 - どうでもよかったので放って置かれた
- 放っておけば分裂の深化は必至
 - 別にそれでもよい？
 - 権威主義的、発展途上の国の専売特許というわけでもない
- どうすれば？
 - マルチステークホルダーの議論によってインターネットを規制する国際的な法的枠組みをかくかくしかじか